

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
 (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
 (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
 (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 … 351人

グループ数 25グループ

(2022年5月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

田んぼの稲の緑が濃さを増す季節となって参りましたが、皆さまお健やかに過ごしてはいかがでしょうか。

少しずつ世の中も平常にもどりつつあり、はしかけ活動に対する期待も至る所で感じているところです。

事務局としても、皆様の充実した活動を支えていけるよう、ますます努力していきたいと考えています。

さて、事務局より下記のとおりお知らせがあります。

■びわはくフェスについて

本年度はびわ博フェス(10月22日～23日)を開催する方向でいます。

はしかけさんやフィールドレポーターさんなど、博物館とともに活動している方たちが、発表や情報交換できる場を設けたいと考えています。その内容もたまたま検討中ですが、今後随時、アナウンスさせて頂きたいと思っています。

■「はしかけ」活動の制限の緩和について

はしかけ活動については、令和4年5月17日から活動の制限を、下記のとおり緩和しましたのでご留意ください。

屋内…部屋の定員以下の活動は可。飲食は厳禁(実習室1 24人、実習室2 36人、生活実験工房20人)

屋外…実施可。ただし、30名以上の活動の場合は2班に分ける。飲食は非対面なら可

※活動の実施にあたっては、メンバーや担当学芸員と相談の上、感染症対策を十分に行なうようお願い致します。

■はしかけグループ代表メールアドレスの変更について

各はしかけグループの代表メールアドレスに、迷惑メールが多数届くようになってしまった事態を受け、各グループの代表アドレスを変更致しました。また、ホームページやはしかけニューズレターに各グループの代表アドレスを掲載することを廃止しました。これにより、迷惑メールが配信されるリスクは減少すると考えています。代表アドレスが非公表になることで、少なからず会員の皆様にご不便をお掛けすることがあるかもしれませんが、どうぞご理解ください。各グループの代表アドレスをお知りになりたい場合は、はしかけ事務局アドレス(hashi-adm@biwahaku.jp)までご連絡ください。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 57 名】

グループ担当職員：田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■3月27日(日)うおの会総会、ゼゼラ講演会 場所:琵琶湖博物館セミナー室 参加者:23名

久しぶりに琵琶湖博物館で顔を合わせて総会が行われました。23名が出席し、議案書に沿って2021年度の報告を聞き、2022年度役員および計画を承認しました。総会終了後に、来年度から新たに担当学芸員に加わってくださる川瀬学芸員のセミナーがあり、琵琶湖、膳所、淀川を名前に持つ日本固有種のゼゼラ(*Biwia zezera*)とヨドゼゼラ(*Biwia yodoensis*)について学びました。琵琶湖にいるゼゼラが琵琶湖固有種ではなく、下流の淀川にいるヨドゼゼラが固有種であることが不思議です。うおの会の調査では幻に近いゼゼラ。外来魚の台頭とともに姿を消したそうですが、今年はお目にかかりたいものです。(石井千津)

■4月17日(日)第165回定例調査 場所:大山川 参加者:16名

今年度初回の定例調査は、野洲川支流の大山川で行われました。大山川は国内外来種オヤニラミが滋賀県で最初に確認された場所で、1990年代後半のことだったと記憶しています。当日は天候に恵まれ、採集している皆さんの背後には青空に聳える三上山。肝心の川は、三面護岸の単調な地形で、魚の種類も数も少なめ。それでもタモロコ、モツゴ、ドンコ、カワムツ、オヤニラミなどが採集されました。

採集個体数はオヤニラミが最多で、肉食性外来種が優占する状態でした。魚以外では中国産外来種と思われるヌマエビ類や、スジエビ、水生昆虫類が多かったので、オヤニラミはこれらを餌としているのでしょうか。内容はともかく、無事に今年度第1回目の調査を終えることが出来ました。今年も1年間、よろしくお願いします。(報告:中尾博行)

■5月15日(日)第166回定例調査 場所:長浜市南浜町水路、琵琶湖岸 参加者:18名

5月にしては少し肌寒い中での調査となりました。まずは事前に中尾会長がナマズを見かけた堤脚水路へ。覗いてみるとナマズの卵があり、その観察からスタートしました。その後、二手に分かれて内陸側の2本の水路の調査を行いました。

水路1では、大きなニゴイが泳ぎ去るのを横目に見ながら魚を探すものの網に入るのはヨシノボリの稚魚ばかり。水温も15℃しかなく胴長を通して水の冷たさが伝わってきます。

水路2ではコイ、フナ類、ナマズ、ヨシノボリ類が採れ、コイ、フナの卵も確認できました。コイは在来型と思われる、細い体型の個体が採れ、フナはニゴロブナ、ギンブナの他、判別に迷うものもありました。水田からの濁水が強烈で、大型の産卵親魚以外採れなかったのが気になるところです。

その後、全員で湖岸に移動して調査をしました。ホンモロコの卵が見つかるかも、と期待したのですが見つからず、ピワヒガイやウツセミカジカが見られた程度でした。とても魚の少ない調査になってしまいましたが、この時期のこの場所に魚が少ないという貴重な情報を得ることができました。

私事ですが、帰りに道の駅で生ビワマスを購入し、この時期ならではの琵琶湖の幸を堪能しました。(報告:高田昌彦)

【活動予定】

6月は野洲川、7月は日野川での調査を計画していますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容を変更する可能性があります。詳細はメールにてお知らせします。



調査の様子(4月)



大山川で採れた
タモロコなど(4月)



長浜市の水路で採れた
コイ(5月)



コイ、フナの卵が
多数ありました(5月)



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員：橋本 道範

【活動報告】

「近江 巡礼の歴史勉強会」の活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で休止していますが、今郷棚田の自然観察会を少人数で実施した。

■ 令和4年4月15日(金) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

甲賀市の花「ササユリ」の確認と、在来種のタンポポ、メダカ、スジエビなどの観察を行った。また、ビオトープ予定地の見学と意見交換を実施した。

■ 令和4年4月23日(土) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 1名

シロバナタンポポを発見した。今郷棚田地域には黄色の在来種が残されているが、旧東海道沿道は外来種のセイヨウタンポポが極めて多いことが解った。

■ 令和4年5月8日(日) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

今郷棚田の在来種魚類調査で体長約4cmのモツゴを確認した。

■ 令和4年5月18日(水) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

今郷棚田の在来種魚類調査で体長約8.5cmのタモロコを確認した。



タンポポ



モツゴ

【活動予定】

・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。

・各寺院への訪問調査を進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員：榎永 一宏

【活動報告】

■ 2022年 4月 17日(日) 参加者3名

大津の崇福寺跡にてスケッチ。

百穴古墳群入口にて集合。

古墳群のそばの竹林に出ているたけのこを横目に坂道を少し上り崇福寺跡へ。

金堂跡の礎石に座って青楓を見上げると、エナガが枝移りをしていました。

以前、訪れたときより荒れていて(今年の、台風の置き土産でしょうか?)

石がゴロゴロしていて、金堂跡への道が歩きにくくなっていました。

右の写真は、崇福寺跡ということを書いた石碑と青楓です。

お天気に恵まれて、楽しい時間を過ごしました。



■ 2022年 5月 15日(日)

仰木の棚田でのスケッチの予定でしたが、参加者が少ないため延期しました。

【活動予定】

■ 2022年 6月19日(日) 琵琶湖博物館内でのスケッチ

活動時間10時30分～15時

持ち物／スケッチの道具。

ただし、オープンラボ以外での水彩・油彩は不可。

晴れたら午後は平湖でのスケッチも予定しています。

■ 2022年 7月17日(日) 琵琶湖博物館内でのスケッチ

活動時間10時30分～15時

持ち物／スケッチの道具。

ただし、オープンラボ以外での水彩・油彩は不可。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:橋本道範

【活動報告】

■3月26日(土) 参加者:2名

今回から次の機にかける作業に入りました。最初は経巻(たてまき)作業です。千切(ちきり)に経糸を巻いていくのですが、糸がゆるまないように引っ張りながら、さらにハタクサを入れながら巻くのでかなりの重労働です。毎回筋肉痛になります。

■4月6日(水) 参加者:7名

前回経巻はできたので、次は織り前を固定する作業です。経糸を少しずつ分けて同じ長さにくっつけていきます。なかなか長さがそろわないので、完成せず、次回に持ち越しです。

■4月23日(土) 参加者:4名

前回同様、くりつけ作業。糸が細いため、長さをそろえるのが難しく時間がかかりました。

■5月14日(土) 参加者:3名

今回は綜纒作りです。下糸を1本ずつレース糸ですくっていきます。2時間ほどかけて作ったものの、失敗してやり直すことになりました。

【活動予定】

■織姫の会

5月25日(水)、6月8日(水)、25日(土)、7月13日(水)、30日(土)、8月はお休み

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2022年4月の活動

○4月24日(日)に野洲クリーンセンター近くの露頭調査の予定でしたが、雨のため中止になりました。

担当者からは新鮮な露頭で見ごたえがあるとの報告を聞いていただけに、調査ができず残念でした。

次年度は調査に行きたいと思います。

■2022年5月の活動

○西浅井町月出地区の野外調査(参加者 9名)

日時:5月8日(日)10:00～14:30 晴れ

場所:滋賀県長浜市西浅井町月出

1. 調査の概要

快晴に恵まれて、琵琶湖と山に囲まれた景色のいい場所を散策し岩石の調査をしました。絶好の調査日和になり気持ちよかったです。それぞれの調査ポイントでの岩石調査で夢中になってしまい、予定された場所全てを回る事はできなかったのですが、色々な岩石を観察することができ、有意義な勉強をする事ができました。

2. 調査の結果

まず斜面が崩壊した場所から調査を始めました。頁岩、泥岩、チャート、ホルンフェルスなどが確認できました。その後、ペグマタイトの露頭があり石英、細粒花崗岩、ペグマタイト(内部まで変質している)が確認できました。その後、細粒花崗岩とスカルン鉱床の境目らしき露頭を調査しました。変わった物が混じったような細粒花崗岩を観察することができました。また、廃坑跡もあり、灰鉄、柘榴石、微弱な磁性を持つ石も確認できました。最後に湖岸に降り、石灰岩、泥岩、石英、メランジユを確認できました。

3. 感想

スカルン鉱床やペグマタイトや細粒花崗岩など、今まであまり目にした事がなかったので大変勉強になりました。石灰岩が発達しているような地域で花崗岩が貫入した時に発生した熱水により、柘榴石や単斜輝石に置き換わる事があると、教えていただき自然って凄いなと感じました。滋賀には他にも花崗岩がある場所がたくさんあるので、ほかの場所でもそういった現象があるのかを探して学習していきたいと思います。

【今後の活動予定】

- 6月4日(土)10:00~15:00 予備日6月11日(土) 太郎坊宮(箕作山)の野外調査
- 7月:博物館にて薄片観察会
- 8月:びわ博フェスの準備
- 9月:鹿跳橋周辺の調査
- 10月:びわ博フェスへ参加
- 11月:宇治方面を野外調査
- 12月:屋内で地学勉強会 天文学地球科学からみた岩石
- 1月:屋内で地学勉強会 岩石持ち寄り情報交換会
- 2月:新年度活動計画についての会議 地学発表会



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■4月から5月にかけては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により室内での作業などができなかったため、活動を行っていません。

【活動予定】

館のコロナ禍における活動基準が緩和されたので、6月より順次活動を開始する予定です。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 41 名】

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■勉強会「アケボノゾウ化石多賀標本の意義について」

日時: 4月17日(日) 13:00~14:00 講師: 高橋啓一先生(滋賀県立琵琶湖博物館館長)

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 7名

活動内容: 4月23日から行われる多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査にむけて、講師に高橋啓一先生をお招きして、アケボノゾウ化石多賀標本の意義について勉強会を行いました。

(アケボノゾウ化石多賀標本は、令和4年3月に国の天然記念物に指定) 勉強会のなかで、アケボノゾウ化石多賀標本が天然記念物に指定された理由として、多数の骨が発見されたことや、右前脚の関節部分が揃った状態で残っていたことなどを知りました。アケボノゾウ化石は、国内の他の場所でも発掘されていますが、それらの多くが、関節部分などの小さい骨が残っていなかったり、骨が欠けていたりしていることを知り、改めて多賀標本の保存状態が良いことを知りました。また、アケボノゾウは日本の環境で進化したゾウだと考えられており、アケボノゾウの生態や当時の環境を研究していくうえで、多賀標本は重要な資料になることを学びました。高橋先生のお話を聞いているだけでも、アケボノゾウはどのような状態で化石になったのだろうか、小さい骨も残ったということは、現場は沼だったのか、安定した環境だったのかなど、当時の様子をイメージしてみたり、皆さんと熱く話し合ったりしました。



【勉強会】

■多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査

日時: 4月23日(土)~4月30日(土)

場所: 滋賀県犬上郡多賀町四手 参加者: 34名(延べ)

活動内容: 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査に参加しました。参加された皆さん熱心に発掘をされ、貝化石や植物化石、脊椎動物の骨化石など様々な化石を発掘することが出来ました。今後、これら発掘した化石のクリーニングを行い、発掘するだけでなく、クリーニングや保存の知識、スキルを身に付けていきます。

【活動予定】

■多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査で発掘した化石のクリーニング

日時: ①5月15日(日) 13:00~15:30

②5月21日(土) 10:00~12:00

(松岡敬二先生をお招きし、古琵琶湖層群の貝類化石について及び貝化石のクリーニングについての勉強会もあわせて行います)

③5月22日(日) 13:00~15:30

場所: いずれも琵琶湖博物館 実習室1

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

日時: 5月28日(土)13:00~15:30

場所: 琵琶湖博物館 実習室1



(9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■新型コロナウイルス感染対策のため、1月よりディスカバリールームは閉室していました。

そのため、ディスカバでのイベントはありませんでした。

【活動予定】

■5月10日よりディスカバリールームは平日のみ開室を再開しました。

ただし、イベントの開催予定はありません。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・妹尾まで声をかけてください。

いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 26名】

グループ担当職員:美濃部諭子

■4月16日(土) 里山体験教室 下見 参加者14名

今年度最初の里山の会の活動です。まだ少し肌寒い中、春の里山体験教室の下見をしてきました。

春は散策をするので、野草を採りながら当日のコースを歩きました。今年も去年と同じコースで池まで行ってきました。いつもタラノメを採っているところが今年はあまり残っておらず残念でしたが、池のあたりのワラビは今年もたくさん採れてよかったです。

野草の名前を覚えてもらいながら歩いていると時間が足りないくらいで、はしかけの森に戻ってきたのが12時くらいでした。戻ってきてから、午後の活動予定の里山整備と木の名札作りの打合わせを簡単にしてお見を終えました。

午後からは草加さんに来てもらい、希望者だけで勉強会をしました。野草や木の名前や特徴を覚えてもらいながら散策コースの復習です。1日に2回も散策をして、とても勉強になりました。途中、午前中には通らなかった場所に入ってみるとアカザがたくさんあり、みんなで少しずつ採って帰りました。



■4月24日(日) 里山体験教室 本番 一般参加者19名、会員12名

本番の天気はあいにくの雨でした。7時時点では雨が降っていなかったのですが午前だけでも開催しようと判断したものの、現地に到着するころには小雨とはいえないほどの雨が降っていました。欠席される方が多いと思っていましたが、ほとんどの方が来ていただいたので驚きました。活動しにくい部分もありましたが、雨ならではの里山の様子を感じてもらえたのではないのでしょうか。散策は、雨ということもあり、池までは行かずに折り返してきました。午後からの活動は雨の中実施するのは危ないので中止し、午前中の活動のみで終わりました。最後に、採ってきた野草を家で食べたい人には、食べられる野草か、食べられない野草かの判断を里山の会のメンバーにもらい、各自持って帰られました。

雨の里山体験教室は活動そのものよりも準備と片付けが大変でした。テントを立てたり、ブルーシートで屋根を作ったりと里山の会のみなさんの協力でなんとか雨でも活動を実施することができました。戻ってきてからの片付けが思っていた以上に大変だったので、夏以降は雨が降らないことを祈るばかりです。



【今後の活動予定】

- 6月15日(水) 潮干狩り
- 7月2日(土) 里山体験教室 下見
- 7月10日(日) 里山体験教室 本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

昨年は、新型コロナウイルスの感染状況の広がりに伴い、念のためにお休みすることが多く、なかなか集まって活動することが出来なかった。

3月に入って、セツブンソウ、ユキワリイチゲが咲き始め、個人的に毎年のように訪れている場所へは行くことができ、その度にグループメールで画像を送り合って情報交換してきた。感染対策をしっかりと行う方向で、4月から活動を再開した。

【活動報告】

■ 4月3日(日) 栗東自然観察の森 13:00～ 小雨決行 参加者 5名

久しぶりの活動ということもあり、まずは屋外から始めた。

季節的に見られる花が多い栗東自然観察の森へお出かけした。いつもの活動より少し早い13:00～開始。

駐車場にはすでにモクレン、ミツバツツジのなかまがあり、集合前からそれぞれで観察していた。駐車場から入るとすぐに、セントウソウ、カテンソウ、フキ、ウバユリ(芽だし)。手入れされた所には、一面のカタクリが満開状態だったが、あいにくの小雨で花は開かずに閉じて下を向いたままだった。残念！その後、雨は小やみになったりしてくれ、久しぶりの観察を楽しむことができた。

この観察の森では、セリバオウレン、コセリバオウレン、バイカオウレンがほぼ同じ場所にあり、葉の形状の違いや花の咲く時期のずれなどを比べて見ることができる。自然界ではこうはいかない。

バイモの花の柱頭と種子を包む実の形が同じことも観察。また、めずらしいシホウチク(四方竹)が植栽されていて、手で触って「周囲が正方形？丸くない！」と名前の意味を確認することもできた。

4月初旬の覚えとして、観察したもの(記号なしは、花FLのみ)の名前を記録しておく(上記文と重複あり)。

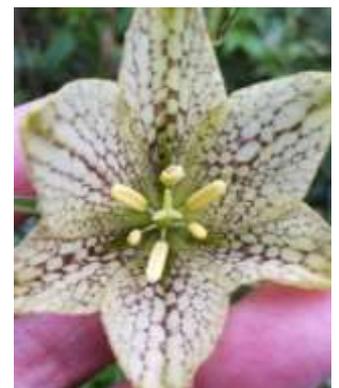
カテンソウ、セントウソウ、ニリンソウ、カタクリ、バイモ(FL、FR)、オドリコソウ、フキ(雄花のみ)、ミヤコカンアオイ、ユキワリイチゲ、バイカオウレン、ウバユリ(芽だし)、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、キクザキイチゲ、イワウチワ、オオイワカガミ、ムベ(蕾)、カエデのなかま(芽だし)、ヤマアイ、ハナノキ、コブシ、モクレン、レンギョウ、ユキヤナギ、ハルトラノオ、サンショウソウ、ヤマザクラ、オオシマザクラ。

あまり見る機会のないものとしては、アオイスミレ、ナギ、イズセンリョウ、ウラシマソウ、コオニタビラコ。花は無かったため、葉のみを見た。ハルトラノオについては、後で調べたところ、開花時期が春、半湿地生ということもあり、多分間違いないと思う。

「雨なので早く終了しましょう」とみんなで言いながら、やはりいつも通りの時刻に終了となってしまった。しかし、この時期にしか見られないものをたくさん見られて満足な定例会だった。

■ 5月1日(日) びわこ地球市民の森 10:00～ 雨天のため中止 参加者 0名

またまた、雨。小雨では無かったので、やむなく中止。



【今後の活動】

■月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。

■外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。

■ 6月以降 未定

その他、新型コロナウイルスの広がり状況や雪によってもお休みにすることがあります

※この活動に興味のある方は、登録講座後、はしかけ事務局メールへご連絡ください。
たくさんの方のご参加をお待ちしています。





(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第70回総会を、3月27日(日)19時から、オンラインで開催しました。13名が参加しました。まず、久しぶりの参加者がいたので、ここ2年ほどで入会された方々の自己紹介を行いました。次に4月からの活動計画を検討しましたが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、感染の縮小に応じて、集まって行う活動を増やしていく方針が確認されました。最後に各人の活動報告を行いました。議事録案が出てきたときにあまりにも詳細だったことに、皆が驚きました。これは途中から書記を務めた岡谷さんが、レコーディングを行って「テープ起こし」をしたためでした。

オミクロン株流行で延期になった「珪藻基礎講座 はじめてのたんさいぼう」を、4月10日(日)18時からオンラインで開催しました。今回は、インターネット上の研究資源を用いた珪藻同定入門で、会員の古川麻依さんと島津心暖さんが講師をつとめました。Diatoms of North America のウェブサイトを使いこなすことができれば、日本に出現する珪藻も概ね7~8割程度は同定することができます。そこで手元にスケールバーが入った珪藻の顕微鏡写真を置き、Diatoms of North America のサイトにある珪藻写真をスマートフォンの上などで適宜拡大・縮小してスケールを揃えれば、手元の写真との比較を容易に行うことができます。スマートフォン上で写真のサイズを容易に変更できるところがポイントです。同様の方法は、例えば琵琶湖博物館の電子図鑑「珪藻」などにも適用可能です。この方法を開発した彼女らは高校時代、約1年で姉川周辺の堆積物(「縄文小泉湖」および「氷期小泉湖」)の珪藻を、ほとんど自力で同定することに成功しました。

黒沢(クロゾオ)湿原(徳島県)の珪藻については、もう少しで同定が終わるところまで来ています。瀬田公園(大津市)の珪藻については、約1年前に同定まで完了していましたが、担当者多忙のため研究が止まっていたので4月末に影の会長が引き継ぎました。2003年(!)に採集された安曇川および姉川・高時川の珪藻についても担当者が決まったので、少しずつ研究を進めていきます。

【活動予定】

新型コロナウイルス感染症は未だ収束しませんが、滋賀県の「確保病床の占有率」が20%以下まで減少したことにより博物館の活動基準が緩和され、再び集まって活動ができるようになりました。そこで今後、博物館に集まってのワークショップなどを再開していきます。さしあたり、珪藻植生報告で顕微鏡写真を一定のスペース内に効率よく配置する「珪藻の詰め込み教育」を、夏に对面で行うことを計画しています。また従来通り、個人研究や面会によらない共同研究も進めていきます。上記の「たんさいぼうの会」としての活動の他に、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究なども少しずつ進んでいます。また個人研究として、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、東海層群亀山層から出現した Praestephanos 属の研究、千種川(兵庫県)の珪藻植生研究、姉川にかつて存在したと考えられる「縄文小泉湖」および「氷期小泉湖」の古環境の研究なども進めていきます。

新型コロナウイルスの感染状況がもう一段落ち着いたら、しばらく行っていなかった「たんさいぼうの旅」を復活したいと思います。秋から冬くらいに、福井県立年縞博物館の見学と、西坂さんのフィールドである千種川(兵庫県)の訪問を計画しています。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

ゴールデンウィークも終わり、イネが並んだ田んぼもたくさんみられるようになりました。博物館の実験工房でも5月8日に田植えがあり、田んぼの生きもの調査グループでは余ったイネをもらって実験用のミニ田んぼを作りました。今年はここでカブトエビを育てる計画です。

■ 5月8日 13:00~16:30 琵琶湖博物館実習室1 出席者 9名

新入会のご家族や久しぶりの参加者があったため、全員で自己紹介をしました。その後、調査方法や手順について山川代表から説明があり、調査の準備をしました。田んぼで集めたエビ類を固定して保存するために、容量の異なる3種のサンプル瓶にエタノールを入れて番号シールを貼りました。今年のグループ全体での調査日程は、以下の通りです。

- 1) 5/22(日) 愛荘町・甲良町調査

- 2) 5/28(土) 旧長浜市 姉川流域調査
- 3) 6/4(土) 石山寺三・四丁目, 赤尾町 カブトエビ類調査



* これ以外にも瀬田近辺で臨時の調査を行う可能性があり、その場合はメールで随時連絡する予定です。

調査準備が終わった後は全員で実験工房に行って「みずかがみ」の苗をもらうとともに、GPS の使い方を確認して調査に備えました。もらったイネはカブトエビの飼育用として、博物館研究棟 2 階の屋上に設置した容器に植えました。これで準備万端、あとはエビの出現を待つばかりです。



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5 名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

< 「タンポポ調査・西日本2020」まだ報告書は届いていませんが・・・ >

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2020」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度、2年にわたって実施される広域調査ですが、2020年調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が制限されたので、2021年春まで調査が延長されました。滋賀県でも、2019年3月～2021年5月分の3年分のデータを事務局に提出しました。編集に時間がかかっているようで、報告書はまだ届いていませんが、入手できたら調査に協力していただいた皆さんにお渡しいたします。

【活動報告】

1. 調査全体の総括

滋賀県では、3年間で約2,500の頭花サンプルを送っていただきました。琵琶湖博物館のフィールドレポーターの皆さんを始めとして大勢の方々に調査にご協力いただき、参加者の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

2. 2022年春の活動

西日本調査の調査期間ではありませんが、引き続き身の回りのタンポポについて、メンバーが調べてくださっています。今年は、守山の川沿いのシロバナタンポポの群生について、詳細なレポートをいただきました。

3. ロクアイタンポポが増えている？

ロクアイタンポポという大ぶりのタンポポが、滋賀県でも増えています。今年は、そのような少し変わったタンポポの報告もいただいています。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

次回（2025年）の広域調査に関しては、規模が大きく変わる可能性があるとのことで、4月以降に各府県の実行委員会（滋賀県では琵琶湖博物館）の担当者を集めて、今後の方針を探る話し合いが持たれるとのことです（5月時点でまだ連絡はありません）。結果は、またお知らせします。

（文責：芦谷）



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員：中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。

また活動時間は、昨年度の午前・午後の2部制から、4月からは10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

■4月の活動 4/20(水) 8組(幼児10名、大人10名)

コロナ禍での一般参加なしの活動から、久しぶりの活動。4月の気持ちよい晴れ空の元、工房裏の竹林整備も含めて、みんなでタケノコ掘りをしました。初めての竹林でタケノコを探す親子、土の割れ目からわずかに出ているタケノコの先を探します。見つかる、やっただですが、そこからが大変。クワやスコップを使って周りの固い土を掘り返していきます。子どもも大人も一生懸命、うまくタケノコの根元にクワが入り、サクッとタケノコが掘り起こせました。掘ったタケノコは、早速バンダナおじさんが灰汁抜きでゆでてください、それぞれ持ち帰ってもらいました。みんな美味しく食べてくれたかな？

■5月の活動 5/18(水) 7組(幼児9名、大人9名)

春に植えたウスイエンドウの実がなっているかなと見に行くと、サヤだけの状態。バンダナおじさんに聞くと、なんと「タヌキが食べちゃった」とのこと、森に住む動物のことを想像しながら、わずかに残ったエンドウやソラマメを収穫しました。

工房前の森へ探検。ノイチゴがなっていたり、ムカデがいたり(みんなでドキドキ観察)、フカフカの落ち葉で遊んだり、ミズさんにビックリしたりと短い森の道ですが、発見がいっぱいでした。

とても暑い日でした。ということは、ガチャポンポンプで水遊び！「キャッキョウ」と歓声をあげながら、水遊びを楽しむ子ども達と笑ったり、驚いたり、着替えを心配したり、あきらめたりのお家の方達。そしてその光景を見ながら、微笑むはしかけメンバーでした。



4月 タケノコ掘り

4月 広場で琵琶湖を眺めて

5月 落ち葉がフカフカだよ

5月 サツマイモ苗を植えよう

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
6月	6月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ6月	<ul style="list-style-type: none"> ・定員10組 ・予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 ・毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) ・コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ・ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなどやさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。
7月	7月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ7月	

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 4月、5月は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、観察会は行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 安達克紀・由良嘉基

【活動報告】

本年度のわくわく探検隊のスタートは6月とさせていただきます。

初回は「プランクトンを見よう!」です。本年度こそは全活動予定が開催できることを願っております。

【活動予定】

■ 6月11日(土)
「プランクトンを見よう!」



(18) ほねほねくらぶ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員: 松岡由子・中川信次

【活動報告】

- 4月9日(土) 参加者: 1名
大人のディスカバリールーム内のオープンラボにて、イタチの骨のクリーニングを行いました。
- 4月24日(日) 参加者: 2名
カルガモの徐肉、イタチの骨のクリーニングを行いました。
- 4月30日(土) 参加者: 4名
カワラバト(ドバト)の徐肉、ハクビシンの解剖、を行いました。
- 5月15日(日) 参加者: 1名
大人のディスカバリールーム内のオープンラボにて、シカの頭骨のクリーニングとバイカルアザラシの手足の骨のクリーニングを行いました。

この日クリーニングしたバイカルアザラシの手足の骨は、一度骨にした時に脂が多く残っていたので、水に浸けて脂が抜けるのを待っていたものでした。今回で大分と脂が抜けてくれた様子でしたが、それでも部位によってはまだまだ脂が滲んでいるものもありました。骨格を制作する時に、しばしばこの脂というものキレイに抜けてくれなくて、悩ましい思いをすることがあります。特に太腿の骨や脛の骨、二の腕の骨などに多いように思いますが、今回のバイカルアザラシの場合は主に手先足先の指の骨に多く脂が残っている様子でした。制作する毎に出来る骨の状態には差があります、なぜそのようになったのか?それは動物の違いによるものなのか、骨の場所の差なのか、個体による差なのか、作る時期や方法によるものなのかなど、条件の違いを考えて、もっとキレイに仕上げるにはどうしたら良いのかと考えるのも、この活動の悩ましくも面白い所なのかも知れません。



▲シカの頭とバイカルアザラシの手足の骨

- 5月21日(土) 参加者: 2名
カワラバト(ドバト)の徐肉、タヌキの骨のクリーニングを行いました。

【活動予定】

・6月、7月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

- 5月9日(月) 参加者: 6名

活動内容: 植物観察会(栗東市荒張にて)

2022年度の緑のくすり箱の活動が始まりました。今年度の最初の活動は、栗東市荒張のあさがら野子ども自然舎にて植物観察会を行いました。月曜日ということもあり、参加者は少なかったですが、心配していた雨も降らず、楽しく活動が出来ました。

最初はお子さんたちと一緒に破竹の収穫。そのままにしておく竹林がどんどん拡大してしまうということで、破竹を収穫する意味があることを知りました。鍬やスコップを使って、1本ずつ破竹を掘っていくのは大変でしたが、とても楽しかったです。また、周辺にある薬草も収穫し、使い方などをメンバーで交流しました。こちらで見つけた薬草は、桑、蓬、蛇イチゴ、葉山椒です。

桑の葉は若葉を収穫して、干して細かくすれば、桑茶や桑塩(天ぷらにおすすめ)を作れます。蓬は、茹でてから刻み、すり鉢でつぶしてから、草餅や蓬パンにできます。また蛇イチゴの赤い実はアルコールに漬けて、チンキを作り、水で薄めてスプレーボトルに入れれば、虫刺されケアに利用できます。葉山椒は、とてもいい香りでした。アロマテラピー効果が期待できそうだなと思いました。葉山椒は筍ご飯や吸い物に添えたり、干してパウダーにしたりします。

ちょうど活動日の前日に、こちらではヤギの赤ちゃんが2匹産まれ、ぴよんぴよん飛び跳ねたり、お乳を飲んだりする姿をみる事が出来てとても癒されました。ありがとうございました。

【参加者の感想】

- ・桑の葉、蓬、山椒、新緑の中手にふれながらの観察会、子供達とふれあいながらとても楽しい一日でした。
- ・破竹は家で重曹を少し入れてあく抜きし、味わいを楽しませてもらいました。湖南の新緑の伸びやかな世界、湖西とはまた違った自然を堪能しました。
- ・筍もいっぱい取れて、ヤギさんたちにも会えて、とても楽しかったです。
- ・思った以上に奥まった場所でしたが、いろんな植物が自生していて、楽しい一日でした。ヤギが可愛かったです。帰ってから蓬白玉を作りたいと思います。
- ・新緑の中、元気な子供達や生まれたての子ヤギにも出会え、薪の燃える香りも心地よかったです。



【活動予定】

- ・5月18日(水) 午前10:00~ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(蓬、ヒノキ)
- ・6月5日(日) 午前9:30~ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(植樹祭イベント:ヒノキ)
- ・7月6日(水) 午前10:00~ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(夏の植物)
- 〃 午後13:00~ 新聞紙バック作り



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■新型コロナウイルスの影響を考えると活動は行いませんでしたが、引き続き「虫架け通信」を発行し昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

The image shows three issues of the 'Insect Shelf' newsletter. Issue No. 42 features articles on 'Local Insect Identification' (近畿近郊産の昆虫) and 'Insect Knowledge' (昆虫の雑学). Issue No. 43 includes 'Insect Identification' (近畿近郊産の昆虫) and 'Insect Knowledge' (昆虫の雑学). Issue No. 44 also contains 'Insect Identification' (近畿近郊産の昆虫) and 'Insect Knowledge' (昆虫の雑学). Each issue includes photographs of various insects and detailed text.

【活動予定】

新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■ 4月9日(土)10:00~12:30頃 参加者:(会員)5名(博物館職員)林

内容: 樹冠トレイルの樹名板が3年を経過し見えにくくなったり固定針金がきつくなったため付け直しを行った。また2019年に植栽した木(一部実生)の生育状況調査をおこなった。樹高と胸高(胸高に満たないものは根際)直径を測定した。樹高は3年前の1.0~2.3倍、直径は1.0~2.7倍であったが数値による評価は難しい。アカガシの1本は主幹上部が枯れ、葉色も悪く生育不良であったが残りはそれぞれ成長が感じられた。

■ 4月23日(土)10:00~12:30 参加者:(会員)6名(博物館職員)林

内容: 近江富士花緑公園の植物園で観察を行った。満開のシャクナゲをはじめゴマギ(香り)、ウバメガシ(雄花、雌花、昨年受粉の実)、シキミ(花)、マンサク(実)、ウリハダカエデ(雌花)、ハルニレ(実)、チャンチン(昨年の実と種子)、常緑モクレン(葉、花)、ブナ(葉)、キハダ(蕾)、ヤチダモ(花)、ヤマグルマ(葉、花)、イイギリ(蕾)、アカガシ(葉)、ミズナラ(葉)、ナラガシワ(葉)などを観察した。草本ではアギスミレ(花)、スミレ(花)、ヒメハギ(花)、ヒメスイバ(花)、ミミナグサ(花)、胞子嚢を付けたトクサ類(シダ植物)などを観察した。



ホンシャクナゲ



ハルニレ(実)



ヤマグルマ(花)

■ 5月14日(土)13:30~15:30 参加者:(会員)10名(博物館職員)林

内容:篠原前館長による博物館周辺のガイドツアー(植物の民俗学的考察)

牛に鼻輪をつけるための穴開けには削り跡がささくれないヤマボウシが使われる。天秤棒にはよくしなり強いネズミサシが使われる。かつてはヤマグルマから鳥もちを作りカモを捕った。このように人は身の回りの植物を観察しその特徴を生活に利用して来た。今回はこのような民俗学的な観点から博物館周辺で見られる植物のガイドを頂いた。シナノキ(縄)、シャリンバイ(黄色の染料)、ツワブキ(食用)、イグサ(トウシンソウ灯芯草)、ナンキンハゼ(蠟)、イタヤカエデ(小原箆)、チガヤ(芯が甘い)、アカメガシワ(食品を包む)、ナギ(熊野信仰で分布拡大)、ヒサカキとソゴ(神へのお供え)、カキノキ(学問の木)、ヤマグワ(養蚕)、ムクノキ(研磨剤)、ヌルデ(柔らかい火力)、クズ(家畜のえさ)など。紙面の都合でだいぶ省略したが出会ったほとんどの植物の解説を頂き時間を忘れて聞き入った。今後の森人活動で先人が残した知恵を伝えていきたい。なお今回は植物標本の整理を担当されている石田さんにも植物名などを教えていただいた。改めてお二人にお礼を申し上げます。



【今後の予定】

■ 5月28日(土)10:00~12:30 6月5日の準備

■ 6月5日(日)10:00~15:00 屋外展示のガイドツアー

■ 6月11日(土)10:00~12:30 内容未定

但しコロナ感染症の状況により開催を判断する。



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:由良嘉基・安達克紀

【活動報告】

会としての活動はなかなか行えない状況ですが、会員からの質問に学芸員がメールで答えるなどして、個人的な活動を少しずつ進めています。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊の活動目的は大きく2つあります。

1. 部活や個人研究で、主に琵琶湖とその周辺の自然と人間を研究する中高生を、学芸職員などがサポートする。
2. 研究をする中高生どうしが交流し、切磋琢磨する機会をつくりだす。

1の目的は、コロナ禍の中でもメールのやりとりなどでそれなりに果たされていますが、2を目的とした活動は2020年以降、2021年5月の「オンライン総決起集会」以外にはほとんど行われていません。その間に初期の主要メンバーはほとんど高校を卒業してしまいました。

琵琶湖博物館では活動基準が緩和され、ようやく集まってきた活動が計画できるようになりました。については今年の後半、久しぶりの顔合わせを兼ねて、総決起集会を開催したいと思います。卒業生も含め、是非ともご参加下さい。

なお、中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方は、はしかけ事務局アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告・活動予定】

■ 今後の活動方針についてメーリングリストなどで協議中です。



【活動報告】

■ 4月 7日(木) 9:30-12:00 晴 参加者 7名

- 1. 活動先: 守山市赤野井周辺地域
- 2. 調査目的:

過去 2 度訪問している (2019.03.15 と 2021.10.7) 守山市赤野井町周辺の水と暮らしについての知識を深める目的で再度訪問した。今回は メンバーの杉田氏が予め現地の事情に精通されている赤野井町歴史の会の面々から聞き置いた情報を現地で メンバーに再度紹介し直し、知識を深め直すことを主目的とした。今回から新たなはしかけメンバーが登録となり、我々と共に活動を開始することになった。

3 調査要旨

(1) 赤野井旧港と美濃部佐兵衛米問屋屋敷

前回訪問時に赤野井町の集落中央に周辺道路から並外れた広さの道路が拡がっている箇所があり、この広い道路は何を意味しているのだろうとメンバー共通の疑問として残っていた。この広い道路は上流の大庄屋諏訪屋敷付近から流れる天神川沿いにあった美濃部佐兵衛家米問屋屋敷の船着き場跡を、60 年程前に埋め立てて道路を拡張されたとのこと。美濃部家の蔵・屋敷は今もそのままの姿で残っている。当時は周辺からの米の積み出し港として栄え、天神川を下って琵琶湖を経て対岸の堅田・大津とつながっていた。近隣では江川跡とも呼ばれており、蓮如上人の木造坐像を安置した蓮如堂が天神川沿いに残っている。



旧船着き場を埋立てた道路



旧家が立ち並ぶ赤野井集落



舟を引き上げる時の通路跡

(2) 蓮如上人箸塚

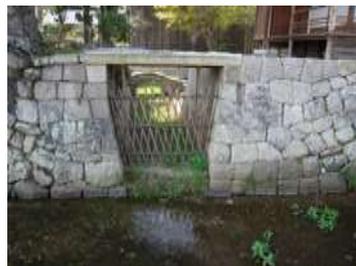
赤野井町のはずれに石碑と柳の木が残っている。高僧は柳の枝で箸を作って食していた名残りという。玉津丸 (玉津運輸会社) の船着き場でもあった。

(3) 大庄屋諏訪家屋敷界隈を再訪問

諏訪家は近郊の庄屋を束ねていた大庄屋で祖先是山本姓を名乗り信州から当地へ移り住んだとのこと。現在当主は 17 代目で屋敷帯は守山市に寄贈され、整備された家屋、庭園の大半を市が管理している。大庄屋への出世の理由は定かでないが、4代目諏訪徳治 (のりはる) が関ヶ原終結直 後草津本陣の家康に当地の鮎ずしを献上して大変喜ばれた上、「赤野井の領地安堵の禁制証」を発行してもらい地域を守り抜いたという伝承があり、立ち回りが機敏であった当主であったようである。集落の狭い路地には多くの地蔵菩薩や道祖神が多く祀られており、この地区で昔からの信仰心の深さが偲ばれる。



大庄屋諏訪家横の道祖神



大庄屋諏訪家の船着き場跡



周辺から集められた道祖神

(4) 赤野井東別院と西別院

当時この地区への蓮如上人(1415 年生まれ 本願寺 8 代法主)の布教活動に際し、その都度 比叡山延暦寺から弾圧、門徒への迫害が繰り返された時代であった。今も当地では蓮如伝説があちこちで傳承されている。

また、西別院の庭園のはずれには戦時中日本軍が松脂から採取した松根油を燃料に使おうとした名残りの松の木が 1 本今も元気に残っている。根元に採取した傷跡をコンクリートで補修した跡が残る。



川を守る道祖神



松根油採取跡の松



集落内のカワト

(5) 赤野井町の周辺の様子

赤野井町から琵琶湖へ至る周辺には赤野井遺跡、赤野井湾遺跡が発掘されており、しっかりとした条里制が縄文時代早期 (6 世紀後半～) 頃から存在していたと言われている。町内を流れる天神川は通称堂川と呼ばれ、幹線水路になっている。その天神川を中心に町内の路地に隈なく水路が配されており、その水は天神川に加えて町はずれのポンプ場から汲み上げられた水が流されていると、近くで作業中の老人からお聞きした。少し金気の含んだ水であること。同時にこの地区では川への下り口を「カワト」と呼んでいること。さらに数ヶ所水溜まり場が残っており、昔はここが靱の芽出し作業場で、種池と呼ばれていることも教えていただいた。

(6) 赤野井町に多く住まわれるアカイ姓について

赤井さん 阿伽井さん 阿加井さん 三つの姓のお宅が混在している。その謂れまでは定かでない

【活動予定】

・5月12日(木) 計画中

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■令和4年3月21(月)9時00分～11時15分 天候:晴れ 気温:9℃ 参加者:4名

観察状況

* 琵琶湖波もなく穏やか。春には珍しく遠く雪山が見えた。春を感じながらの作業日。

活動内容

1. ミーティング
2. 広場と反対側(浜側)の保護区域内ロープ際に深さ45cm、長さ10mの溝を掘り波板設置
3. 保護区域内の除草(スズメノカタビラ、オランダミミナグサ、カヤツリグサ等)



水位: +13cm

海浜植物

- ①ハマエンドウ ・若葉が一面に広がっている。
- ②ハマゴウ ・未だ、枯れたような状態のまま。
- ③ハマヒルガオ ・若葉はまだ全く見えない。



保護区内に地下茎侵入防止波板設置作業



保護区域内の除草

■令和4年4月5日(火)9時30分～11時30分 天候:晴れ 気温:16℃ 参加者:5名

観察状況

* 春の暖かな作業日だが、琵琶湖は荒波が立ち、しぶきが跳ね返し荒れている。
浜は草とハマヒルガオが芽吹いてきた。

活動内容

1. 新年度総会 (行事予定、予算等審議)
2. 浜及び保護区域内の除草(コマツヨイグサ・チガヤ・スズメノカタビラ・オランダミミナグ サ・ヨモギ等)
3. 第2浜、佐波江浜、マイアミ浜の観察

海浜植物

- ①ハマエンドウ ・葉も大きくなり緑が濃くなった。(昨年の4月6日には蕾を確認しているが、今年は見当たらない。広がりも小さいように思われる。)
- ②ハマゴウ ・全体的に枯れている。まだ変化はない。(昨年は芽のふくらみを確認している)
- ③ハマヒルガオ ・浜に新葉が広がっている。



水位: +10 cm



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ

第2浜

* 第2浜はゴミが散乱し、砂浜も狭くなっている。(ハマエンドウの植生近くまでゴミが押し上げられている) ハマエンドウは確認できた。第2浜の奥にはハマダイコンが確認できた。



ハマダイコン



ハマダイコン

マイアミ浜

* マイアミ浜の奥は整地されたためか今まで見られなかった場所にタチスズシロソウが確認できた。

芝生の中には見つからず範囲的には広がっているが数は少なくなっているように思われる。
ハマヒルガオが整地のためか去年の場所に見当たらない



タチスズシロソウ



テニスコート脇のタチスズシロソウ



ハマヒルガオ

佐波江浜

* 佐波江浜のタチスズシロソウは昨年育成していた場所は一年草が数本しか見つからない。(砂がかぶった?)
しかし、水際の近くまで広がっている。一年草もあるが大株のものがたくさん確認できた。
浜欠が長く続き段差が 30 cm ぐらい出来ている。



ハマヒルガオ



タチスズシロソウ



浜欠

■ 令和4年4月15日(金)9時30分~11時00分 天候:曇り 気温:13℃ 参加者:5名

観察状況

* 雨上がりで北風が強い。琵琶湖は荒波が立ち荒れている。
冬に戻ったような寒い作業日。

活動内容

1. 浜及び保護区域内の除草(コマツヨイグサ・チガヤ・スズメノカタビラ・オランダミミナグサ・ヨモギ等)
2. オオキンケイギクの駆除(2株)



水位: +10 cm

海浜植物

- ①ハマエンドウ：・葉も背丈も大きくなり緑が濃くなった。蕾が数か所に見られ花も二か所確認。・道路側と浜側(保護区外の松の木の下)生育状態比較、浜側の方が背丈も高く密集している。
- ②ハマゴウ：・全体的に枯れてはいるがよく見ると新芽が膨らみ始めた。
- ③ハマヒルガオ：・新葉が大きくなり広がっている。



ハマエンドウ



道路側のハマエンドウ



浜側のハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



保護区内にいた幼虫

■令和4年5月3日(火・祝)9時30分~11時30分 天候:晴れ 気温:18℃ 参加者:5名

観察状況

* 春真っ盛りの晴天。湖面はさざ波が立ち、対岸の山もくっきり見える。
さわやかな気持ちの良い作業日。ハマゴウやハマヒルガオが浜に広がり始めたが、ゴミが多い。



水位：+15 cm

活動内容

1. 道路側及び保護区域内の除草(コマツヨイグサ・チガヤ・スズメノカタビラ・オランダミミナグサ・ヨモギ、ツユクサ等)
2. ネナシカズラの駆除 (1か所。7株。昨年と同じ所)

海浜植物

- ①ハマエンドウ：・葉も背丈も大きくなり緑が濃くなった。花が咲き出し、蕾がたくさん見られた。
- ②ハマゴウ：・全体的に新芽が出て葉も広がり始めた。
- ③ハマヒルガオ：・新葉が大きくなり蕾がたくさん出来て浜に広がっている。西の浜には花も確認。



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



アメリカネナシカズラ

元ネイチャーズ新海浜会長の宇野さんから「新海浜の保護区近くに繁茂しているツルニチニチソウ(生態系被害防止外来種)について、繁殖力が強く根絶するのはむづかしいが保護区内に入らないように除去したい」との話があった。

3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房の田んぼでも、3年振りに田植えのイベントを開催しました。

晴天の下、皆さま、楽しみながら農作業をして頂きました。

作業の最後に、工房の田んぼで獲れるお米の量は、1人が1年間に食べる量ぐらいだと伝え、「これだけの人数で作業して1人分しか獲れないのか…」など驚きの声が上がりました。

このような体験が、食べ物の有難みなどを感じる機会になってくれることを願っています。

今後の農作業イベントの予定は下記のとおりです。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 7月24日(日) 昆虫採集
- 9月11日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月2日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 11月20日(日) 土の中の小さな生き物を探そう
- 12月18日(日) しめ縄づくり
- 2月5日(日) わら細工

担当: 交流係



田植え前に稲の一生について学びます。
撮影者：虫架け 梶田氏



皆さん田植えを満喫して頂きました。
実り多き年となりますように。

4. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。